

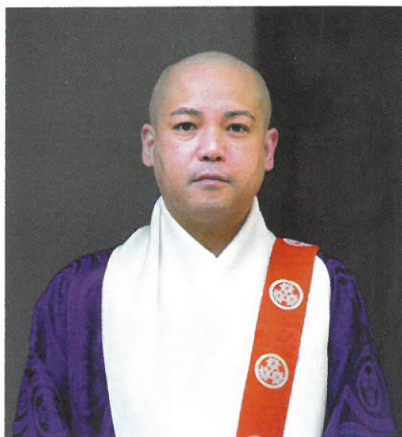
高尾山報

高尾山中興開山650年



令和7年 1月号

明けましておめでとうございます



執事
深田 洋平



執事長
犬山 秀康



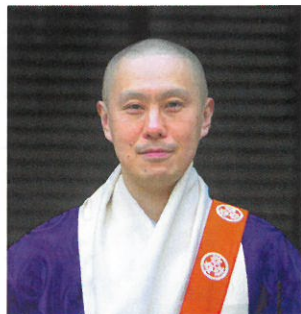
信徒部長
山本 憲佳



庶務部長
藤田 健太郎



総務
原田 明仁



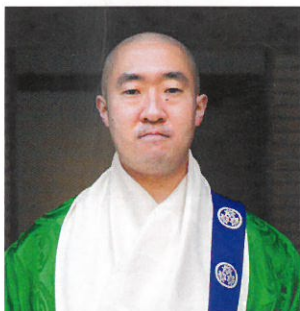
法務部長
上村 公昭



用度課長
大山 文武



参事
佐藤 伸二



教務課長
杉山 宗聖



法務次長
桑名 善光

交通安全祈禱殿
高尾山修験道

蛇滝水行道場
高尾山報編集室

琵琶滝水行道場
山内職員一同

令和7年 年頭所感

勇猛精進の道

大本山高尾山薬王院 中興第三十三世 貫首 佐藤 秀仁



明けましておめでとうございませう。御信徒の皆様が良き新春をお迎え遊ばされたこと、心よりお慶び申し上げます。

旧年を顧みまするに、広く世界中では惨い争い事が絶え間なく続き、我が日本国内に於きましても年頭に能登半島沖を震源とする大きな地震に見舞われました。更には、その後北陸を

豪雨が襲い不幸にも多くの方々が被災されました。一日も早い復興と心身の立ち直りを念じて止まぬところでありませう。

さて、高尾山は古の奈良の御代、天平十六年に聖武天皇の勅命を受けた行基菩薩により薬師如来が奉られ開山されました。

その後、南北朝時代の永和年間に京都山

城の国宇治の里醍醐山より俊源大徳が入山し、飯縄大権現を感得奉安なされ、広大無辺なる大威力により愈々寺門は隆盛へと導かれ今日に至ります。

その俊源大徳による中興開山より数えて本年は六百五十年という大きな節目に正當致します。俊源大徳は「勇猛精進」というお言葉を残されておりませう。

即ち、仏のみ教えに示された道を力強く進み、心身に於いて十分理解した上で種々の困難にもめげずに更なる精進を重ねよ、という意味が込められております。

こうした尊いご法縁にあたり当山では報恩謝徳の記念事業と致しまして、ご信徒の皆様がより快適、心安らかに

にご参拝頂けますように院内設備の整備と共に、大師堂（江戸中期建立・東京都有形文化財）の修復を発願致し既に実行に移されつつあります。御信徒各位には本浄業に対し格別なるご理解とご信援を仰ぎたく、心から懇願申し上げます。

伏して願わくは、皆様親しくご信心の高尾山御本尊飯縄大権現様の毗が世界中の隅々に巡り、全人類が心の底から穏やかに過ごせる日が到来致しますように、更には御信徒の皆様がそれぞれ勇猛精進なされ御健康と御繁栄に導かれませうよう祈念致し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



花材：万年青

いけばなの心 ⑤8

華道教授 佐藤 宗明

新年あけましておめで
とうございませう。
今年の初作品は、長
寿や子孫繁栄の象徴とし
て古くから親しまれてい

る『万年青』の生花です。
万年青はその青々とした
葉が一年中変わらな
く、多く結ぶことから、祝
いの席にふさわしい植物

とされています。特に冬
を代表する草木として
お正月に用いられること
が多いものです。
古くから今に伝わる万
年青の生け方では、向
かって左に高く伸びる葉
は新葉、右に広がる低い
葉は前年の葉、そして中
央の短い葉は二年目から
三年目の葉となります。
また、この作品には『朽
葉』という葉先が枯れた
ものを準備することがで
きました。朽葉を三年目
の葉として扱う事で特有
の風情と時間の流れを感
じさせる仕上がりとなり
ました。
本年が皆様にとって、
万年青のように健やかで
実り多い一年となります
よう、心よりお祈り申し
上げます。



高尾山中興開山六百五十年 記念事業実施のお知らせ

本年は俊源大徳が高尾山を再興された永和年間より数えて、
六百五十年という大きな節目の年に正当致します。
当山ではこの勝縁を記念して、年間を通して様々な記念事業
を執り行つて参ります。その事業の一環として、一月一日より一年
間、大本堂において「特別御手元」、御護摩受付所において「特別
御朱印」を授与致します。
また、御本尊様の御手に「御手綱」という五色の綱が結ばれ、
大本堂正面賽銭箱前まで繋がっており、御来山の際には、御
手綱に触れ、「南無飯繩大権現」とお唱えし、御本尊様と更なる
御縁を結ばれてはいかがでしょうか。



特別御手元

授与期間
令和七年一月一日～十二月末
※御来山されて御護摩修行に
参列された方にお授け致し
ます。



御手綱

中興開山六百五十年記念 特別御朱印授与の御案内

この御朱印は、御本尊飯繩大権現様と、高尾山を中興され
た俊源大徳をモチーフとした、力強い切絵が施されており、
御参詣の折りにお求めくださいますようお願い申し上げます。



特別御朱印

授与期間 1月1日～年内予定
授与所 御護摩受付所
授与額 2,000円



成道会 厳修

十二月八日(日)

高尾山上の有喜苑仏舎
利塔において、成道会が
厳修されました。
お釈迦様が三十五歳の
十二月八日に、菩提樹の
下で悟りを開いて、仏陀
(仏様) となられたことを
成道といひます。
この尊い日には、毎年
成道会という法要が営ま
れております。

百観音霊場巡礼 (35)

厚木市 荒井 一雄

正月遊那智山

西国の
青岑渡寺に参り来れば
飛瀑天より身を洗ふらん

熊野三山権現天

正月、那智山に遊ぶ
熊野三山大権現…

天皇隠皇詣三千

歴代天皇・法皇の詣ると三千回…
飛瀧は大断崖を真つ二つに寸断…

飛瀑切糸大崖断

きつと主祭神(伊弉冉尊)の
皇子・素戔鳴尊が八岐大蛇を

王子密封大蛇川

封じ込め、那智の飛瀧に
変身させたのかも…

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(151)

昨日より

をちをば知らず

百年の

春の始めは

今日にぞ有りける

（『拾遺集』紀貫之）

（昨日より以前はさておき、これから百年も続く春の始めはまさに今日という日なのだ）

年が改まって、いよいよ令和七年（二〇二五）の頁が始まりました。真新しいカレンダーを眺めながら、今年こそ「穏やかな年になりませうように」と心新たに祈ります。

冒頭の「昨日より」の歌は、屏風絵（屏風に描かれた絵）に合わせて詠われたものです。もとの家集である『貫之集』には、詞書に「あつまりて元日酒のむ所」と記されており、年の初めに寄り集まって酒を酌み交わす

姿が屏風絵には描かれていたのでしょうか。これから「百年」（長い年月）の寿命が続いていくことを皆で言祝いでいるようです。

お酒といえば、令和六年十一月五日に日本の「伝統的醸造り」がユネスコの無形文化遺産に登録されるといって嬉しいニュースが舞い込みました。私たちの身近にあるお酒は、日本の伝統文化に欠かすことのできない存在として今日まで伝えられてきました。

例えば、年頭に飲む薬酒は「お屠蘇」と呼ばれます。『年中行事歌合』（貞和五年（一二三〇））には、二条良基（一二二〇～一三八八）の言葉として「屠蘇白散といふ薬は、一人これを飲みぬれば一家に病ひなし、一家

飲みぬれば一里に病ひなしといふ」（屠蘇・白散という漢方薬は、正月に酒に入れて一人飲めば、その家族で飲めば、一里（約四キロメートル四方）の家々に病がない）と記されています。「屠」には邪気を打ち負かし、「蘇」には命が蘇るという意味があるように、中国からもたらされたお屠蘇は、邪鬼を払い、延命長寿をもたらしてくれる薬用酒として日本に広まってきたとされています。そして、新年の風習の一つとして、普通のお酒も「お屠蘇」と称して飲まれるようになったのです。

「酒は百薬の長」（酒は適量に飲めば、多くの薬以上に健康に良い）という諺があります。やはり飲み過ぎは禁物です。

花のもと

露のなさは

ほどもあらず

酔ひなすすめ

（『新古今集』寂然）

春の山風
（『新古今集』寂然）
花の下で、少だけ露の情けを感じても、すぐに覚めてしまおう。酔いを勧めないでほしい、春の山風よ）

歌に見える「露の情け」は「わずかな楽しみ」を意味するとともに、「なすけ」という響きには「情け」と「酒」とが掛けられています。春の晴れやかな心持ちとともに、いつい進んでしまおうお酒ですが、「花は半開、酒はほろ酔い」（物事は完全でないところにかえって味わいがある）という



一年の健康を願いお屠蘇を頂く

天狗面安全祈願法要厳修

十二月十四日（土）

年の瀬の足音が近づくJR高尾駅ホームにおいて冬の冷気が肌を刺す中、旅客安全、輸送安全、交通安全を祈る「天狗面安全祈願法要」が執り行われました。

法要に先立ち、一年の汚れを落とすため天狗面の清掃が行われ、JR高尾駅の駅長を始め駅員の皆様、公益社団法人八王子観光コンベンション協会、高尾登山電鉄株式会社の職員の方々にも、お手伝い頂きました。

法要に際しては駅を行き交う人々が足を止められ、共に祈りを捧げました。

天狗面は昭和五十三年十月に完成し、高尾駅のシンボルとして人々に親しまれており、高尾山へお参りにこられた御信徒や、高尾駅を利用される方々を毎日見守っておられます。



天狗様に一年の無事を祈る

を巡行中に、杖を突き立てたところに井戸や泉が湧き、そこから清水や酒、温泉などが湧き出したという「弘法清水」「弘法水」と呼ばれる伝承ですが、そうした中から今回は東京上野に伝わるお話を取り上げてみたいと思います。

京成上野駅から不忍池と上野公園の間の道を抜けると、やがて都立上野高校の正門前まで続くゆるやかな上り坂に辿り着きます。この坂は「清水坂」と呼ばれ、『江戸名所記』（寛文二年（一六六二））には、かつてこの地にあった「谷中清水稲荷」をめぐって次のような言い伝えが記されています。

昔、お大師さまが修行でここを通られた時のこと。たいそう喉が渇いていました。するとそこに一人の年配の女性がいました。水桶を抱えて、遠くから水を運んでいました。

すると、女性は気の毒に感じて、お大師さまに手元の水を差し上げました。そして「この土地には水がありません。いつも遠くに汲みに行くのを辛く感じています。私には一人の子がいますが、長いこと病に臥せていて、やつこの思いで養っています」と嘆き語るのでした。お大師さまは憐れみ、独鈷杵（金剛杵）を手に持ち地を掘ると、忽ちにして清水が湧き出したのでした。その水は、夏は冷たく冬は温かで甘露のようになり美味しく、井戸は夏の日照りでも枯れることがありませんでした。

お大師さまは、ここに稲荷明神を勧請（神仏を迎えること）しました。そして女性の子が、さっそくこの水で身を洗うとすぐに病は癒え、それ以来、この清水は万病に効いたことから「清水稲荷」と呼ばれるようになりました。さらに家々も増えて、この地をお大師さまを慕って「清水町」と名付けたのです。

（『江戸名所記』）
「清水坂」の辺りは、かつては木々が鬱蒼と茂っていたために「暗闇坂」とも呼ばれました。谷中清水稲荷は、元禄年中（一六八八～一七〇四）に駒形堂の南方（現在の台東区駒形）へと移転しましたが、「清水坂」は、お大師さまの慈悲の面影を残しながら、今にその名を留めています。

ちはやぶる
神や切りけむ
突くからに
千年の坂も
越えぬべらなり
（『古今集』僧正遍昭）
この杖は神が切り出したものでしょうか。突いて歩けば、千年の坂でも越えられそうです）
この歌にあるように、「坂」は「栄え」に通じます。厳かな「暗闇坂」の静寂を思い浮かべながら、本年の光あふれる「弥栄」（繁栄）を心よりお祈りいたします。
（栃木北部教区普濟寺）

観音菩薩の宗教

85

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音（その23）

「三夢記」における親鸞の第一の夢は、親鸞が十九歳の時であり、第二の夢は二十九歳になる直前の数え十八歳の時に見たものであった。二つの夢にはほぼ十年の時を挟んでいたが、内容的に繋がりを保持していた（前号および前々号参照）。次いで第三の夢は第二の夢からわずか一年、建仁元年（一一〇一）四月に見たもので、結論に関連は見られるものの唐突な内容も含んでいる。この時、親鸞は数えの二十九歳であった。先ずは「三夢記」の記述から原文と拙訳を掲げよう。

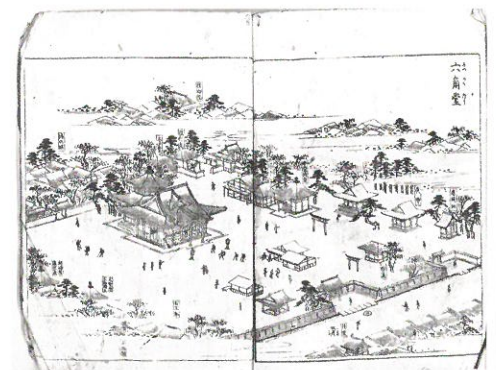
「建仁元歳辛酉四月五日の夜、寅の時、六角堂の救世大菩薩、告命して善信に言はく、行者、

宿報にて設ひ女犯すとも我、玉女と成りて犯せ被れむ。一生の間、能く莊嚴し、臨終引導して極楽に生ぜしめむ（建仁元歳辛酉四月五日ノ夜、寅時、六角堂救世菩薩大菩薩告命シテ善信言、行者宿報設女犯我成玉女身被犯、一生之間能莊嚴、臨終引導生極楽）」

「建仁元歳辛酉四月五日の夜、寅の時、六角堂の救世大菩薩が告命して善信に言うことには、行者（親鸞）は前世からの報いとして（妻帯という）女犯をなすであろう。そうであるならば、我（救世観音）如意輪観音（聖徳太子）が玉のよう美しい女となって、犯せられよう（妻帯とな

ろう）。（汝・親鸞は）一生のあいだ見事な人生を送り、臨終のさいには我が（汝を）引導して極楽に往生させよう」

ここにあるように、親鸞は京都の六角堂において三度目の夢を見た。六角堂は頂法寺の塔頭で、由来となっている。創建以来、たびたびの火災に見舞われ、現在の堂宇は明治十年（一八七七）の再建である。本尊は如意輪観音で、創建は聖徳太子に帰せられている。縁起によれば、聖徳太子が四天王寺建立の用材を求めてこの地に来た時、池で水浴中に置いておいた持仏の如意輪観音像が木から離れなくなり、その夜、観音が夢告によりここが有縁の地であることを示したので、像を安置するため六角堂を建立したという（仙海義之「法然・親鸞の夢想―祖師伝絵が描く聖体示現」『美術史論集』神戸大学美術史研究会、二〇〇



秋里籬島著・竹原春朝画『都名所図絵』安永九年（一七八〇）に描かれる江戸時代の頂法寺。左方に六角堂が見える（金岡蔵）

八年、三〇頁）。この逸話は虎関師鍊の『元亨釈書』（二三二）にも記されているから、親鸞も知っていたことと推測される（同前、三二頁）。これによれば、六角堂は如意輪観音、聖徳太子との縁を有し、それが親鸞の参籠へと連なっていく。

親鸞は第二の夢の翌年、六角堂で百日の参籠を行ない、そこで上述の夢告を得た。石田瑞磨の推測によれば、親鸞は第二の夢における聖徳太子の告を「もう一度、これを最後として太子に問おう」と試みたのではないかと思う。その最後のかげが六角堂百日の参籠だったのではないか」という（前掲『苦悩の親鸞』三九頁）。とすれば、親鸞の三つの夢とそれに関わる実践は

密接に結びつく。しかも第三の夢を契機として法然を訪ねて弟子となり、親鸞の生涯が決定づけられた。真宗学者・井上尚美は、「六角堂夢告は親鸞の生涯で最も重要な出来事である回心を決定づけた直接的契機である」と評している（『六角堂夢告 再考』『親鸞教学』八六巻、大谷大学真宗学会、二〇〇五年、一九頁）。

親鸞の高弟で真宗高田派の祖となった真仏は、その著『経釈文問書』に親鸞の真筆と伝えられる『親鸞夢記』を引用し、

夢告主の救世観音の様子をさらに詳しく書いてある（井上尚美、前掲論文、二〇頁）。「親鸞夢記云、六角堂ノ救世大菩薩、顔容端政ノ僧形ヲ示現シテ、白衲ノ御袈裟ヲ服著セシメ、広大ノ白蓮ニ端座シテ、善信ニ告命シテ言ハク（親鸞）に告命して言うことには」となる。これに先の偈文が続く。

また、後に親鸞の妻となる恵信尼が親鸞没後の弘長三年（一一六三）二月十日、娘の玉御前（覚信尼）に送った手紙には、「やま（山）をいで、六かくだう（角堂）に百日こもらせ給て、ごせ（後世）をいのらせ給

けるに、九十五日のあか月（暁）、しやうとくたしい（聖徳太子）のもの（文）をむすびて、じげん（示現）にあづからせ給て候ければ（後略）」（『恵信尼文書』第三通）

また、松野純孝『親鸞―その行動と思想』評論社、一九七二年、六七頁）と述べ、参籠の九五日目の暁に見た夢とされる。

以上を踏まえ、夢告の内容を見てみよう。たびたび引用した石田瑞磨は、第三の夢告を端的に要約している。すなわち、「いつてみれば、この偈は、太子が女と身をかえて親鸞の妻となり、一生の間、添いとげて、臨終には極楽に導こうという」ものである（前掲書、四一頁）。

一般的にはこの告命は、愛欲の克服に悩む親鸞が後に妻帯することの許しとなったと解釈される。一方で、「宿報にて設ひ女犯すとも」は、親鸞が性に悩んだというよりも、あくまで仮定として読む

べきであって、重要なのは後半に現れる「莊嚴」や「臨終」であるとする説もある（同朋大学仏教文化研究所編『誰も書かなかつた親鸞―伝絵の真実』所収、青木馨「六角夢告―親鸞は性に悩んだのか」法蔵館、二〇一〇年、六五頁）。そうだとすると、この偈文の旨趣は「性に悩む一人人の救済の請願文ではなく、それをはるかに超えたいわば全人類の救済にかかわるものと理解できる」（同書、六七頁）。そのことは、『親鸞夢記』や『親鸞絵伝』が伝えるように、「四苦の偈文」に続いて「この請願の旨趣を宣説して、一切群生にきかしむべし」とあることから知られよう。

また、古代であれ親鸞の時代であれ、高僧から一般僧にいたるまで妻帯や女犯が決して特殊なかつたことは、『日本霊異記』や『古今著聞集』はじめ文献学的にも実証されている（石田瑞磨

『女犯―聖の性』筑摩書房、一九九五年）。さらに、「ときには僧の妻帯を世間の人は余り気にかける、これを許容し、好意的な眼をもつて迎えている例でさえ、みえる」（石田瑞磨『苦悩の親鸞』四一頁）。かかる時代背景を共有していたとすると、親鸞が衆生済度を旨として勤める限り、女犯という破戒に大きな罪悪感を持たなかつた可能性も否定できない。親鸞の生涯を考える時、三度目の夢告は、女犯や妻帯の問題より、これを機に六角堂を出て「師を求めて、新たな人生を歩き始めた」（石田、前掲書、四二頁）ことが重要であろう。

さて、本論の主題は親鸞の思想や生涯ではなく、如意輪観音信仰の考察である。それを見るために、これまで最澄や空海を論じ、ここでは親鸞を見た。そこで、改めて親鸞の三度の夢における告命者を振り返る。

「三夢記」によれば、夢告主の第一は聖徳太子、第二は如意輪観音、そして第三は救世観音とある。しかしながら、上述のごとく恵信尼の手紙では第三の夢告者は聖徳太子であり、『親鸞聖人絵伝』では「三夢記」同様、救世観音である。しかも六角堂の本尊は如意輪観音である。かかる相違が生まれた理由は、親鸞が救世観音（如意輪観音）聖徳太子と信じていたからで、尊名こそ異れ、尊格は同一ということになる。それを証するようになる。それを証するようになる。親鸞の「皇太子聖徳奉讃歌」には聖徳太子が六角堂を建て、そこに救世観音を安置して、救世観音は聖徳太子として日本に現れたことが歌われている（原文は、草野顕微之『親鸞伝の史実と伝承』法蔵館、二〇二二年、三二頁）。そこには時代も性別も超越して転生・化現する観音菩薩、如意輪観音の信仰を見ることのできる。

明日はお正月です。初音は、お母さんが作ったごちそうを持って、お父さんの運転する車で、ひいばあちゃんのうち泊まり行きました。

ひいばあちゃんは、今でも田舎の古いうちで一人暮らしをしています。

だから、子どもや孫たちが、交代で泊まりに行っています。

お父さんの車が急な坂道を登りきると、道端の田んぼに、うっすらと雪がつもっていました。

「わあ。真っ白だ!」

「ほんとは。ここまで来ると、やっぱり寒いなあ」

お父さんが、白い息を吐きながらいました。

田んぼのむこうに、ぽつんぽつんと家が見えてきました。

ひいばあちゃんの家は、一番奥にあります。

おはなし散歩道
冬のすずめ

柏市 木村 研

家につくと、

「ようきた、ようきた。さあ、あがれ あがれ」

挨拶もそこそこ、茶の間の大きなこたつに案内されると初音は、

「わあ。あったかい」と、ひいばあちゃんをみました。

「そうだろう。炭を継ぎ足しておいたからな」

ひいばあちゃんが、うれしそうに言いました。

それなのにお父さんが無神経に言いました。

「うちの中でも寒いんだなあ。どこか開いているんじゃないの?」

「おおそうだった。奥の部屋に布団を出しておいたから、窓を開けたままになってたんだ。すまんが閉めてきてくれんか」

ひいばあちゃんに言われて奥の部屋にいくと、

いきなり何かが目の前を横切りました。

「きゃ。何かいる」

初音が悲鳴をあげると、お父さんが、お父さんが飛んできました。

「どうした?」

「何かいる」

「何か?」

天井をみると、鴨居に何かが止まっています。

「なーんだ。すずめじゃないか。窓をあけていたから、家の中に入ってきて、外に出られなくなったんだよ」

とお父さんが言いました。

「何、すずめだと。よし、早く窓を閉めろ」

ひいばあちゃんが、箒を抱えて部屋に飛び込んできました。そして、あつという間にすずめを捕まえてしまいました。

「わあ。かわいい」

初音が、すずめを両手で抱えていると、ひいばあちゃんが、

「どうだ、旨そうじゃろ」と、言いました。

「旨そう?」

初音は、ドキッとしま

した。

「食べちゃうの? だめよ。かわいそうじゃない」

「何言ってるんだ。お前の父ちゃんなんかも、すずめ焼きが大好きだったんだぞ」

「ば、ばあちゃん」

お父さんは、ひいばあちゃんが苦手みたいです。

「たしかに昔は食べるものが無かったから、冬のごちそうだったんだよ」

「だめよ。虐待じゃない」

「そ、そうだよな」

お父さんは、

「昔と違うんだよ。なあ。逃がしてやろうよ」と、ひいばあちゃんに言いました。

お父さんがあんまり言うもんだから、ひいばあちゃんは、「そうかねえ」と窓をあけて、

「さあ。逃がしてやれ」と、いいました

初音が、「もう、捕まるんじゃないよ」というと、ひいばあちゃんは、

「今度は、恩返し



にくるんだぞ」と、いいました。

「恩返し?」

「ほれ。もう、忘れてしまったのか?」

初音は、小さい頃、ひいばあちゃんの家泊まりに来ると、いつもひいばあちゃんの布団にもぐりこんで、昔話をしてもらったことを思い出しました。

「そうか、舌切りすずめね」

初音は、くすつと笑いました。

(おわり)

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

三十六段 和の心を育てる

「和を以て貴しとなす」という言葉に代表されますように、自分と他人の価値観の相違をいらずに否定せず、対話や協力を通じてお互いの違いを理解し、共通の理解を築くことで秩序を作り上げていくことが大切です。

『高尾山健康登山の証』のお勧め

年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々に参加されており、期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますと、健康登山者限定の記念品と交換できます。



帳面……七百元
スタンプ……百円

高尾山 季節散歩

和風月名
初空月
「はつそらづき」

初空とは元日の朝空を意味しており、転じて一月が初空月と呼ばれるようになりました。

元日の朝は、晴れていれば瑞兆の証、雨や雪でも豊穰の兆しとされていたそうです。高尾山では日の出に合わせて迎光祭が行われ、無病息災と社会の安寧を祈ります。

今月の風物詩
御節料理

御節料理とは、節日に作られる料理のことです。節日のうち最も重要なものが正月であることから、今では正月料理を指すようになりました。

おせち料理の材料や料理は語呂合わせで縁起を担ぐものが多いのが特徴です。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙

「色づく紅葉」

八王子市 南保 仁恵



魅せてなほ紅葉ゆるりと着せし

「冬の良さ」

中野区 田島 聖恵



冬には冬の良さがある

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

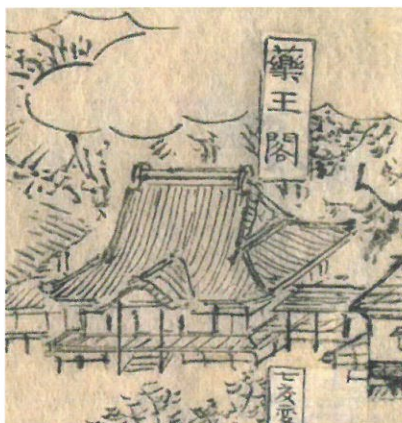
61

十八世秀神19 高尾十勝

徳川幕府の官撰地誌『新編武蔵風土記稿』（一八二二）多磨郡之部成立以下『風土記稿』と略す）には「古より歌人墨客のもてはやす所」として山内の「十勝」を掲載している。すなわち、「薬王殿」「威神台」「白雲閣」「紫陽閣」「海嶽楼」「望墟軒」「七盤嶺」「雨宝陵」「琵琶瀑」「鹿鳴澗」の一〇ヶ所である。今日ではなじ

薬王殿

薬王院の旧本堂。寛政一〇年（二七九八）の建立とされ、明治十九年（一八八六）の裏山崩落まで現在の書院の位置にあった。現在の大本堂の建立当初より大きく異なるが、江戸後期に認識されていた山内の名勝について考察してみたい。



江戸後期の薬王院本堂（『八王子名勝志』から国立国会図書館デジタルコレクション）

『八王子名勝志』（二八四九）の挿絵（図参照）にあるような傾斜が急な高い屋根

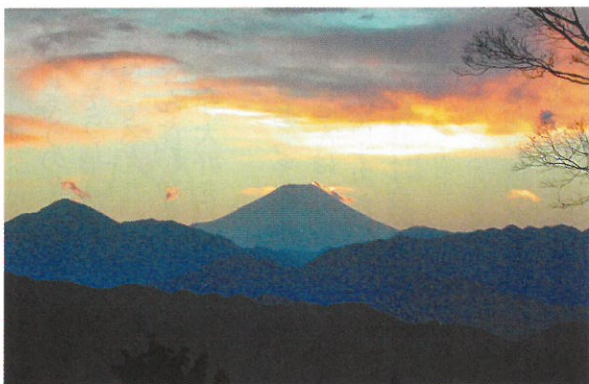
に、人々は目を瞠（おどろ）かしたとだろう。

威神台 すなわち飯縄権現社なり

鮮やかな丹塗りの柱と梁、極彩色の欄間彫刻など、江戸後期の地誌・紀行文に感嘆を以って記される通りである。現在の威容は文化元年（一八〇四）から翌年にかけての修復後のものだが、寛政二年（一七九〇）の堂社書き上げにも同様の装飾がなされていた記事がある。

白雲閣 薬王院の書院なり

安永年間（二七二二〜八二）に建立され、昭和四年（一九二九）の大火まで存続した。白木の格天井に壁画の美しさが讃えられていたが、『風土記稿』には「山の崖端にてすこぶる眺望よし。大木の梢を眼下に見おろすと奇観なり」と、その眺望のよさが記されている。



山頂から望む紫色に染まった夕雲

は、『武蔵名勝図会』（二八二〇、以下『図会』と略す）が「相模川の流れば眼下に接し、南海の白波は天とひとしく平らに、白帆日に映じて動き、金亀山（江の島）は雲間に浮かび瞻望の興尽しがたし」と絶賛するよう

紫陽閣 山中の高峯なり

この所の字を鷹取場と言います。四辺ともに眺望あり「寺を隔つる事十六町ばかり」とあるので、薬王院から少し離れた地点の最高峰とすれば高尾山頂のことだろう。地名は享保年間（二七一六〜三六）に度々実施された幕府鷹匠による放生会執行に由来するのだろうか。紫陽花にちなむと言うよりは、夕陽で紫色に染まった空を見られることと解釈したい（写真）。い

海嶽楼 山下の広庭なり。眺望いとよし

「広庭」は現在の四天王門をくぐった先の広場のことである。「楼」という文字から、直接は崖側に一段下がった平地にあった客寮蓮華院（現存せず）のことを指すが、その名



城見台 仏堂があったにしては敷地は狭隘

見晴るかす風景を由来とするようだ。

望墟軒 浄土院にあり。この所より北条氏照の丘墟をのぞむ

「望墟軒」とは八王子城跡のこと。『図会』は望墟軒という題で漢詩を収録している。難解だが文字からこの周辺が景勝地たる所以が感じられる。

西来暮擁古城雲
一半長巒雨色分
大沢誰収諸将骨
鶴鶴唯以旧時軍

作者である石島正翁は号を筑波・仲縁とし、筑波山人とも称する。江戸中期の儒学者で荻生徂徠とも親交を持った。山内の所々で漢詩を詠んでいるが、高尾山縁起（二七四九）を作文した人物でもある。「軒」の文字は建物に通ずるので塔頭の浄土院（現存せず）のことになるが、北方の景観を含めた周辺一帯を指すようだ。一号路の途中にある「城見台」という標柱が設置された広場に

相当するが、残念ながら樹木に遮られて八王子城を望むのは難しい。

七盤嶺 字旗竿の辺りと言ふ

『図会』は「金比羅社の辺り、俗に言う七まがり」と記す。「七曲り」とは金毘羅台直下の屈曲した登攀路を表現している。「盤」とは将棋盤のような平たい台状の形態を意味するが、七曲りと金毘羅台を組み合わせた表現か。もちろん、金毘羅台の東方に開けた眺望は名所たる所以であろうし、その直下の辺りの森林の植生は今日とは異なり、岩肌には松が点々と生えていたようなので（図参照）、それは確かに風情のある景観だっただろう。

雨宝陵

本文では「小高き陵なり」、「図会」は「琵琶滝の上なり」とするが、昭和初期に至るまで山内絵図には琵琶滝の上方に「雨宝山」の名がしばしば



現在とは異なる金毘羅台下の景観（『八王子名勝志』から国立国会図書館デジタルコレクション）

鹿鳴澗 この所の字を泉

地名の現在地は不明ながら、「澗」とは「谷水」の意味があり、琵琶滝上流部の何れかの地を指すことになる。『図会』は「秋時鹿鳴多し」と記すが、今なお奥高尾の辺りには鹿が生息する。

琵琶瀑

江戸の文人石永貞が寛政七年（二七九五）に来山した折、浄土院の住僧から見物を勧められていたので、その頃には参詣客も立ち寄る場所となっていたようだ。江戸後期にかけて、人々で賑わう様子が史料からわかる。

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

御護摩修行のおすすめ

皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。



御朱印のご案内

御朱印とは本来、心願成就を祈り書き写した経文（般若心経・観音経等）を、御本尊様の宝前にお納めし、その祈願を込めた印として頂いたものです。

現在は神社仏閣への参拝の証として、御朱印を頂く場合が多いようです。

高尾山は霊山として、又、多摩新四国第六十八番、関東三十六不動尊第八番の霊場の札所としてもその名を知られており、季節限定の御朱印など、様々用意しております。

尚、御朱印は御本尊様の御分身に当る玉印であります。大切に護持頂きまして、益々御本尊様のご利益に浴せられますよう心よりお祈り申し上げます。

高尾山薬王院の御護摩札



(小) 巾5.5×長12.5cm	最大巾8.0×長35.5cm	最大巾8.5×長37.7cm	最大巾9.5×長42.3cm	最大巾12.0×長48.5cm	最大巾12.0×長54.5cm	最大巾14.3×長60.5cm
(大) 10,000円	お護摩 3,000円以上	お護摩 5,000円以上	お護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上	特別開帳大護摩 100,000円以上
(中) 5,000円						
(小) 3,000円						

- 家内安全(家)
 - 商業繁昌(商)
 - 事業繁栄(事)
 - 交通安全(車)
 - 交通安全(車)
 - 交通安全(不交)
 - 神棚用木札
 - 身上安全(身)
 - 災難消除(災)
 - 厄除(厄)
 - 身体健全(体)
 - 当病平癒(病)
 - 開運(開)
 - 良縁成就(縁)
 - 安産成就(安)
 - 入学成就(入)
 - 心願成就(心)
 - 御札(札)
 - 奉納杉苗(杉)
- (一)内の略体をお書き下さい
- お護摩の願事
お願い事は「一体一願」として、併願(二願意)は一万円より受け賜ります。但し、五千円で家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。
- お護摩札には年令・生年月日等は入りません。

新たな年の安寧を祈る 正月限定 新春特別祈禱札

令和七年も正月期間(一月一日～一月三十一日)限定で「令和新春特別祈禱札」を授与致します。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発する時代であります。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、種々の災いが少ない、明るい一年となるようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共に祈り下さいますようお願いいたします。

ご祈禱料は一体三萬円となります。

願意(お願い事)は「除災開運」のみとなります。

御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前にお申し込みも頂きます。また、御信徒様各位の御都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に宅配でのお取り扱ひもいたしておりますので、ご希望の方は下段の記事をご参照下さい。



御護摩札及び御守等 郵送・宅配申込方法について

当山では、年間を通して遠方の御信徒様や、高尾山へ直接御参拝することが難しい方々の為に、御護摩札をはじめ各種御守等を、郵送及び宅配にてお受けしております。

お正月御護摩札のお申し込みにつきましては、同様に、お手紙やFAX、または「高尾山公式ホームページ」内の「御護摩札 郵送申し込み」からインターネットにて承っておりますので、ぜひご利用頂きますようお願い申し上げます。

また、各種御守りをはじめ、天狗団扇や熊手等のお正月限定の縁起物の郵送をご希望の際には、お電話にてお問合せ下さい。

お問い合わせ先の電話番号、FAX番号につきましては左記の通りとなりますが、ホームページのアドレス及びQRコードにつきましては、二十ページ下段に記載されておりますので、そちらをご参照下さい。

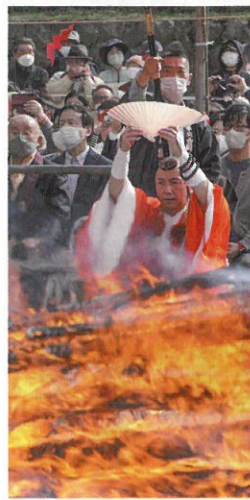
TEL 〇四二一六六一一一一五
FAX 〇四二一六六四一一九九

- お電話やFAXにてご連絡を頂く際には、次のように御護摩係か郵送御守係までお願いいたします。
- 1 御護摩札のみ (御護摩係まで)
 - 2 御護摩札及び御守 (郵送御守係まで)
 - 3 御守のみ



祈大願成就 身体健全

高尾 登



高尾山火渡り祭

（令和七年三月九日 日曜日）

当山では毎年三月第二日曜日に春を招く恒例行事として、祈禱殿火渡り本尊ご寶前にて、高尾山修験道による火渡り祭が盛大に執り行われます。

火渡り祭とは、當山貫首大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈禱法要であります。

この浄行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて供される、御本尊・飯繩大権現様の功德を顕す御壇木のご志納を一本二万円にて募っております。

ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信助を賜りますよう、謹んでお願いを申し上げます。

尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院参道に二年間掲示致します。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒部までお問い合わせ下さい。

電話 ○四二六六二二二五
 FAX ○四二六六四二九九
 大本山 高尾山薬王院 信徒部

令和七年 乙巳(きのとみ)
高尾山節分会追儺式参加申込の御案内



二月二日(日)

歳男・歳女 修行時間

第一回	午前七時半
第二回	午前九時
第三回	午前十時半
第四回	正午
第五回	午後一時半
第六回	午後二時半

尚、修行時間の三十分前、もしくは、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。もし時間に間に合わない場合は次回の修行時間にお入り頂きますので、何卒、ご了承下さいませ。

高尾山恒例の節分会(豆まき式)を、二月二日、身上安全、事業繁栄、諸縁吉祥、除災開運等の祈願をこめて開催致します。

御信徒の皆様には、歳男・歳女に参加されますよう御案内申し上げます。

冥加料(祈禱料)三万円

お問い合わせ節分会追儺式歳男・歳女係
 電話○四二(六六一)一一一五

火渡り祭「なで木」の功德

「なで木」とは御本尊様の慈悲大悲の御手であります。

年齢・氏名を御記入の上、健康な方は益々壮健であるように、お身体に病の生じている方は、御本尊様を念じながら「なで木」でその患部を撫でさすり下さい。

高尾山火渡り祭において、柴燈大護摩供の護摩木として山伏により、



なで木料 一座三百円

お知らせ

高尾山では、御壇木御志納の申し込みを、お電話・ファックス等で受付けております。

高尾山報の一月号に同封いたしました、郵便振替「払込取扱票」を利用してもお申し込み頂けますよう便宜を図りましたので、よろしくお願い申し上げます。

「払込取扱票」でお申し込みを頂く際に、願意(お願ひ事)が未記入でご連絡がつかない場合、「身体健全」とさせて頂きます。

また、火渡り祭の時に名前を読み上げますので、フリガナの記入もお願い致します。

尚、「払込取扱票」は、高尾山報助成金の振替にもご利用いただけます。

神徳報謝百味飲食供 御志納のおすすめ

当山では、御本尊飯糰大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若經六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)
御志納金 一口 三千元以上



大般若經を守護する十六善神の図

厄年を過ぎた

御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら

一年一年を

七十才を過ぎたなら

暑さ、寒さを

八十才を過ぎたなら

春夏秋冬を

九十才を過ぎたなら

一日二日を

気を付けられ

日々を大切に

圓滿にお暮し下さい

当山では皆様の

(身体健全)
(寿命長久) を祈念して

福壽圓滿の 御護摩を

お申し受け致しております。

高尾山の昆虫

ルリカミキリ

以前は身近な場所であつたルリカミキリは、ある時期より個体数が減少し、地域によっては準絶滅危種とされていた状況にありました。



とても愛くるしい姿をしていて、頭部・前胸・脚は薄いオレンジ色でやや太い触角と眼は黒色でコントラストが映えます。そして上翅は光沢が強い青藍(瑠璃色)を帯び、まさにルリカミキリの名に相応しい美麗種だと思えます。従来本種はカマツカ、ボケのようなバラ科の生木を加害し、住宅の庭にあるナシでも見つかる存在でした。

私は高尾山中では今まで遭遇した記憶はありませんが、麓の霊園等で度々目撃しています。これは生け垣によく使われるセイヨウベニカナメモチ(レッドロビン)を本種がとても好むことが要因で、五月の晴天の日に葉上で後食している光景に目を奪われます。

小さな愛すべき加害虫ながら退潮気味だったルリカミキリが、セイヨウベニカナメモチの普及により、復活して来たことは喜ばしく思います。

(撮影・文松島 孝)

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)

相模原市	八王子市	京都市	前橋市	大里郡	鴻巣市	本庄市	深谷市	所沢市	飯能市	加須市	相模原市	海老名市	横浜市	町田市	八王子市	日野市	府中市	大田区	札幌市	所沢市	仙台市	昭島市	北野区	中央区	調布市																																																																							
定本	菱山	松本	角田	深田	石川	福田	加藤	水村	北田	関谷	野本	鎌谷	松政	廣池	小黒	梅澤	濱田	魚地	井上	遠藤	堀	青木	千葉	小町	代田	玉井	金井	マリ子																																																																				
京子	愛子	恭俊	修一	節子	益雄	一夫	裕介	光一	貫一	新藏	典枝	伸	和行	昌雄	美智子	富士子	安代	眞道	瑞穂	岳博	幸子	和子	克己	高市	正俊	大司	大司	マリ子																																																																				
中野区	大田区	台東区	あきる野市	八王子市	日野市	小千谷市	仙台市	前橋市	高崎市	秩父郡	熊谷市	狭山市	羽生市	草加市	東村山市	世田谷区	荒川区	熊谷市	八王子市	新座市	小平市	羽生市	日野市	宇都宮市	新潟市	日高郡	前橋市	伊勢崎市	熊谷市	羽生市	森田	柿沼	長岡	兼井	上畑	寺門	富山	島山	小澤	岡戸	関	彰山	石坂	妻沼	飯縄	石井	玄	萩原	池ヶ谷	望月	田中	大森	鈴木	神林	織田	坂庭	本郷	熊谷	中西	永井	石堂	山下	林	河野	雅子	元雄	ヒデ子	清雅	寛子	正夫	宗有	則子	栄千	早苗	一夫	栄司	康正	慎一	美恵子	益生	政子	英澤	淳	和夫	和夫	和夫	道雄	信雄	榮八郎	雅子	義昌	勝子	敦	聡史	博	猛
高尾山健康登山者一同	真岡市	昭島市	川崎市	川崎市	川崎市	八王子市	日野市	西東京市	小平市	板橋区	杉並区	八王子市	桐生市	太田市	高崎市	深谷市	入間市	比企郡	加須市	川口市	足利市	相模原市	八王子市	八王子市	調布市	武蔵野市	板橋区	尾崎	尾崎	泉田	鎌田	真弓	和則	ふみ江																																																														
同	小暮	橋	天沼	峯尾	岩澤	菅沼	菅沼	宮野入しづ子	荒井	山田	佐藤	中里	森山	落田	田尻	垣沼	青木	坂本	松島	清水	佐久間	田中	峰尾	工業	後藤	佐々木建設	明夫	真弓	和則	ふみ江	和則	ふみ江																																																																

東京都指定 有形文化財

大師堂周辺改修工事

山上の薬王院大師堂では、昨年十二月より令和七年九月(予定)にかけて、大師堂の木部修理と塗装の塗替え工事を実施しております。

尚、修理工事に伴い期間中は建物の仮囲いを行うため、周囲への立ち入りを制限させて頂きます。そのため、延命地藏菩薩、高尾山内八十八大師霊場はお参り頂くことができません。

御信徒の皆様には御迷惑をお掛け致しますが、貴重な文化財を後世へ残してゆくための大切な修理事業となります。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

人車一体交通安全祈禱 高尾山麓 自動車祈禱殿

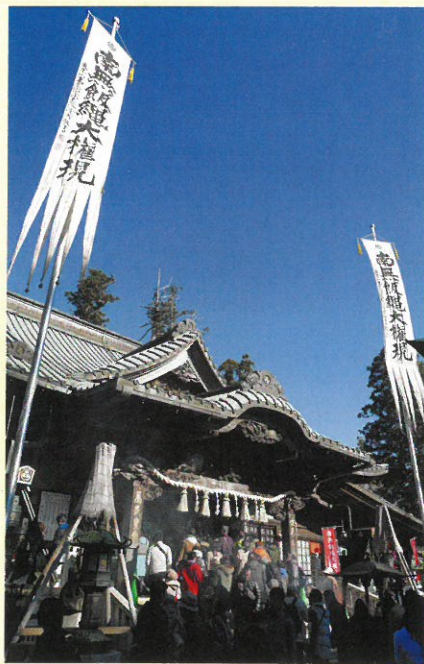
正月御祈禱時間

元日 午前0時より午後四時まで
二日・三日 午前八時より午後四時まで
四日〜七日 午前八時半より午後四時まで

交通事故は偶然生ずるものでなく、多くの場合には、運転者並びに歩行者の心構え一つで防止できるものです。心に安らぎを得て、安定した気持ちで運転して頂く事が大事と考えております。

年に一度は、高尾山の山伏による人車一体の「おはらい」を受けることをおすすめいたします。複数台をお申し込みの場合には、事前にFAXにて受け付けております。

電話：〇四二一六六一一一一八
FAX：〇四二一六六一二二三五



謹賀新年



令和七年
乙巳(きのとみ)
大本山高尾山

春の行事

初詣 迎光祭
新年特別開帳

大護摩供奉修

節分会(厄除開運の豆まき)

二月二日(日)

初午 (福德稻荷祭)

二月六日(木)

釈尊涅槃会

二月十五日(土)

初甲子(福德大黒天祭)

二月二十四日(月)

火渡り祭

三月九日(日)

滝開き

四月二日(火)

花まつり(仏舍利塔)

四月八日(火)

春季大祭(稚児練行)

四月二十日(日)

— 新春大護摩奉修特別時間 —

	1日 (水)	2日・3日 (木)・(金)	4日・5日 (土)・(日)	6日・7日 (月)・(火)	11日~13日 (土)~(月)	19日・26日 (日)	8日以降平日 18日・25日(土)
午	0:00						
	2:00						
	4:00						
	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
	7:30	7:00					
前	9:00	8:00	8:00		8:00	9:00	
	10:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30
	11:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	11:00
午後	0:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	1:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:30	0:30
	2:00	1:00	1:00	1:00	1:00	2:00	2:00
	3:00	2:00	2:00	2:00	2:00		
	4:00	3:00	3:30	3:30	3:30	3:30	3:30

★正月期間中は御護摩受付所や大本堂周辺は、大変混雑致します。
お昼前後の御護摩修行には大勢の御信徒様が集中することが予想されますので、混雑回避のために、時間を調整しての御来山をお勧めいたします。

二月行事日程

一日~七日

聖天秘供(聖天堂)

五日、十七日

弁天秘供

四日、十八日

御詠歌勉強会(千時不動院)

八日

仏舍利詣り(仏舎塔)

二十一日

飯繩様御縁日
神徳報謝百味飲食供

二十二日

月例写経会

(十三時山麓不動院)

二十三日

高尾山とんとんむかし
「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養(十時奥之院)

高尾山薬王院
ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>
下記QRコード
からもアクセス
できます



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円